



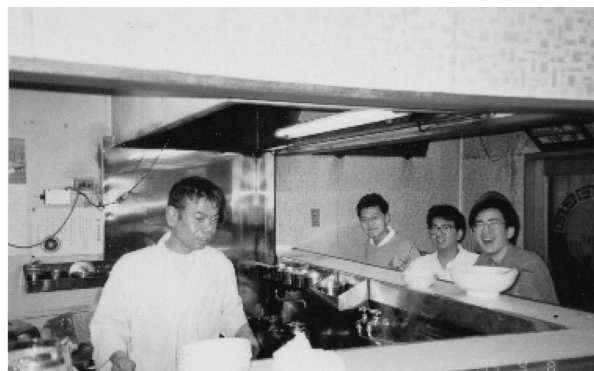
飯屋と飲み屋と研究と

いきなり勝手なことを申し上げて恐縮であります，「飯屋と飲み屋は研究のインフラである」というのが私の持論です。独身が長かったせいもあり，筆者はずいぶんいろいろな飯屋に通いました。

慶應鈴木研の学生の頃，慶應理工学部ふもとにあった中華料理屋「天陽」にはずいぶん御世話になった記憶があります。店では通称「大将」と呼ばれていた，一見ヤクザっぽい風貌のおじさんがくわえタバコでメシを作っていて，かなり感じ悪いのですが（笑），打ち解けるとすごく優しい方で，実験がうまくいかないときなど，「大将！ やってらんね～よお～！」などと年中ブチブチ言うのを聞いてもらいました（写真上）。またここは有機系の研究室の先輩方も通う店だったので，反応がうまくいかないときの試薬の選び方なんかも定食を食いながら教えてもらったことを鮮明に覚えています。この頃よく通った飲み屋はヒヨウラ（慶應語で「東急東横線日吉駅西口，つまり慶應日吉キャンパスから見て駅の裏側」という意味です）にあった居酒屋 VON という店でした。ここも慶應応用化学の学生・教員が年中飲んでいる店で，行くと必ず有機化学の O 先生や電気化学の K 先生，M 先生，生物化学の I 先生など，他の研究室の先生方や学生が年中クダを巻いていて（？），なかなか楽しい店でした。現在共同で仕事をしているベンチャー企業の社長さんは慶應の一つ上の先輩なのですが，その人は学校ではまず顔を合わせたことがないのに VON に行くと必ず（？）会う，という不思議な関係で，当時は研究の話なんかほとんどしたことがないのに十数年もたった今になって共同で研究をやっているご縁というのは，やはり VON だったのだと思う今日この頃です。この店は今だに慶應近くで出張が入ると通っているの，思えばもう 18 年も通っていることになります。VON のマスターも僕が学生の頃は閉店後の店で朝まで付き合ってくれたこともありましたが，さすがにもうそれはつらい年齢になってしまったようです。いつまでも元気でいてほしいものです。

東大に移ってから通うようになった飯屋は，東大農学部（の入り口近くにある「清水」という定食屋で，ここも足しげく通いました。ここは家庭料理的なメニューが多く，しかも「量が多い」ということで，料理を一切しない独身であった筆者には大変ありがたい店でした。ここには通称「清水のおばちゃん」と呼ばれる元気のいい名物おばちゃんがいて，僕は月曜になると「おばちゃん！ さばみそ！」，金曜日は「おばちゃん！ カツカレー！」というのが習慣でありました。この頃のおばちゃんとの合言葉は，清水のおばちゃん：「あ～ら，ケーオーのお兄さん，元気い～？」，筆者：「ホント忙しくて死にそうだよお～（^；:）」，清水のおばちゃん：「でも死んでるヒマもないよねえ～，カッカッカ（笑）」でありました。当時の筆者は，本稿では到底書き尽くせないほどに忙しい時期でありましたが，これが乗り越えられたのは間違いなく清水のおかげであったと思っています。昼飯ではおばちゃんとテレビを見ながら，みのもんたの言うことに難癖をつけ，晩飯ではおばちゃんとべちゃくちゃしゃべってストレス発散，というのが日々の習慣で，研究を進める際の精神衛生上極めてよかったように思います。

その後，姫路工業大学理学部（現在は兵庫県立大学）に移ると飯屋のインフラは一転，最悪になってしまいました。なにせ最寄りのコンビニまで 4 km，ちょっと吉野家で牛丼を食おうと思うと最寄りの吉野家まで片道 37 km という環境であったため，普段は生協でメシを食う以外にチョイスが全くありませんでした。ただ，理学



写真上：慶應理工学部下天陽にて
大将，鈴木研の仲間たちと（1995 年）



写真下：兵庫県大理学部生協前テラス（2007 年）

部は生協の前がテラスのようになっており，天気の良い日はそこで昼食をとることもできました（写真下）。飯屋という視点からは少し外れてしまいましたが，赴任した当時，僕は毎朝学生が登校してくる前にネタ帳を持って誰もいないテラスに行き，朝日を拝みながらコーヒーを飲んで新ネタを考える，というのが日課でありました。そんなテラスである朝突然思いついたアイデアが，現在筆者がやっている研究で，思えばこれも筆者にとってはとてもありがたい研究のインフラであったように思います。

大阪府大へ来てからは，生協でメシを食うことがほとんどですが，ちょっと大学の外に出ると居酒屋や飯屋がたくさんあり，現在開拓中です。いい店があるといいのですが・・・

こうして振り返ってみれば，飯屋・飲み屋には研究をやっていく上でのいろいろな出会いや精神的な支え，アイデアの種があったりして，「いい飯屋と飲み屋に恵まれる」＝「楽しくケンキューできる」という等式は十分成立する（？）ような気がしてきますが，そんなことを言っていると先月の執筆者に「そんな論理は成立しない！」とお叱りを受けそうなので，この辺にしておきます（^；:）。とりとめのない話で申し訳ございません。

次回は，昔からの腐れ縁（？）で学会のたびになぜか一緒に飲んでいる，東北大学理学部の西澤精一先生に御願いしました。きっと学会ではあまり見せない一面を語ってくれることでしょう。乞うご期待。

〔大阪府立大学大学院工学研究科 久本秀明〕